



## 株式会社カント

太田市

- ▶ 代表者: 加藤 幹久
- ▶ 設立年月日: 平成26年2月28日
- ▶ 資本金: 750万円
- ▶ 従業員数: 2人
- ▶ 住所: 太田市藪塚町2175
- ▶ TEL: 0277-78-3655
- ▶ Mail: withran@sunfield.ne.jp



### 企業紹介

室内植物向けのコンポスト（鉢物用土）の自社開発製造、販売を目的に、平成26年に会社を設立。大手花き市場、花加工機器、スリーブ製造国内トップシェアの企業とも連携。現在のコンポストはほとんどが輸入に頼っていますが、国産化および使い勝手の良いコンポストとして開発しました。炭素隔離を確立して、温暖化の原因の一つである二酸化炭素の長期に固定削減を可能にしたカーボンニュートラル、カーボンマイナスができるコンポストの普及を目指します。

### 経緯・背景

2010年に室内植物向けの環境に配慮したコンポスト（鉢物用土）を設計して、OEM生産を開始しました。流通ルート別でそれぞれ商品名は異なりますが、「チャコボール」・「炭づつみ」の名称（構造体名はSMCS）で販売しています。2014年からは製造、販売の両面を自社で行うことになりました。需要は徐々にではありますが増えてきて、代理店の販売鉢数も2019年は約8万5千鉢となりました。製造特許、商標も取得しました。他のコンポストにはないカーボンニュートラルを「炭素隔離」によって実現できる特長を有しています。

### 具体的な取組

現状室内で使う鉢物用土は一般的には配合用土が用いられていますが、室内で使うには生分解することで、病害虫の発生、長期の使用等に課題があります。当社のSMCSは、国産のヒノキやスギとセラミックスを焼成した製品で、生分解することなく長期に安定して使用することができます。これまでは植物ごとにそれぞれ専用のコンポストで育てることが一般的でしたが、SMCSは洋ランから草花まで室内でLED等を用いて育てることができます。その他、電子レンジで簡単に滅菌することも可能なので安心して使うことができる製品です。製品の使い方のサポートはもとより、ユーザーが育てたい植物の肥培、灌水、光のコントロール等、管理のご提案ができます。



### 成果・効果

室内観賞植物を中心に開発したコンポストで100種類以上の植物を単用で育てられることを確認しています。構成物は炭素隔離による炭素とセラミックス。この組み合わせ効果は、農文協出版の「最新花き農業技術花卉vol.7」インドア用土「チャコボール」(炭づつみ)の特性と利用としてまとめられています。その他アマゾンのテラプレタ、縄文の土等に同様の記述がみられます。4R運動のうち、リユース（繰り返し使えます。通常用土は難）、リデュース（廃棄する必要がないので減らせます）、リサイクル（使用後土改剤としても使用できます）を達成できる特長を有します。試験ではナスの育成で連作障害を回避、播種揃いの良いこともあります。その他室内で栽培が困難だったアブラナ科の植物育成も可能になりました。



### 当社にとってのSDGsと、その展望

SDGs17の目標のうち13（気候変動に具体的な対策を）14（海の豊かさを守ろう）15（陸の豊かさを守ろう）に「炭素隔離」で貢献できると考えています。温暖化の一因が二酸化炭素であることは認識されています。人工林のヒノキ、スギが炭素貯留した二酸化炭素を炭素隔離によって減らす試みの代表例が「炭」です。その「炭」とセラミックスを用いて鉢物コンポストとして製品化しました。カーボンニュートラルの実現はもとより、製造する二酸化炭素使用量よりもカーボンマイナスできる可能性があります。日本気候風土の特徴としてヒノキやスギは25年生までが炭素貯留が活発です。このサイクルでサステナブルに循環システムの構築を実現できるものと考えています。幸いなことに群馬県ではすべての材料が県内で調達できることも大きな強みといえます。単用で幅広い植物が良く育つことの研究文献が少ないので、今後はこれを解明したいとおもいます。